



申
40
号



『変革 2027』の実現に向けた**組織の再編**について

に関する**第二次申し入れ**

6月20日 第3回団体交渉を行う! その1

交渉前日に、会社回答の誤り・修正箇所が示される! 第3回交渉にて修正箇所が示される異常事態だ!

3. JR東日本グループの最重要課題である安全性の向上とサービス品質レベルの向上を目指し、支社及び現業機関との連携をより深められる体制を確立すること。

(回答) 時代の変化に柔軟に対応するとともに、社員一人ひとりの働きがいの向上と、生産性向上による経営体制の強化を通じて、安全・サービスレベルの向上を図っていく考えである。なお、企画部門は現業機関だけでは解決できない課題をサポートすることで、現業機関と一体となって取り組んでいく考えである。

組
合

- JR東日本グループの使命は、安全性・サービス品質を向上していくことであり、最大の課題だ。鉄道を軸に成長を図り、安全の土台の上に収支を確保していくべきだが、具体的な考えはあるか。
- **これまで「安全を蔑ろにしない」との共通認識は図ってきているが、現場実態が伴っていない。組織再編によって、具体的にどう向上するのか明確にすべきだ。**
- **事故・事象が多いことから「組織的事故、として捉え、職場の実態に応じた教育訓練の充実を図り、責任を問うような風土を改めること。一部の職場において、マネジメントが崩れ高圧的な態度での管理が行われている職場があり、社員は委縮している。これは経営の質の問題であり、体質が現場に現れている。直ちに是正すべきだ。**
- **安全はボトムアップが重要だ。しかし、現場の実態は、仕事・作業について本質的な教育ができていない。業務を疎かにし、意欲やチャレンジに重きが置かれている上、安全にまでも変革が求められている。鉄道業を重視し、経営のトッププライオリティーである安全が確立できる組織再編成にしていくべきだ。ルールがルールとして変わってしまい、安全行動規範の違反が多発し、JR東日本グループの安全が浸透していない。さらに、世代交代もあり、過去の歴史から学べない今の現実を正しく認識し、魂を入れたものにしなければならない。そのため課題を明確にし、克服していく組織再編成にするべきだ。**
- これまでに120名の尊い命の犠牲に今のルールがある。JR東日本管内で起きている現実には「山手貨物線事故」の前夜であり、危機的な状況だ。今回、施設電気では新たな通達が本社から示され「原則線閉」の取り扱いをせずに作業に着手するルールは、これまでの通達に反する。社員の「いのち、が最優先にされる組織再編にすべきだ。

会
社

- ✓ 地域、エリアのスピーディーな対応を行うことで、サステナブルな運営を実施していく。安全が経営のトッププライオリティーであることに変わりはない。柔軟な組織運営で、お客さまに近い場所での業務を経験し、収益をあげていくことが重要である。
- ✓ **事故・事象については、原因を追究し、現場で行う再教育が必要である。そこには何が不足しているかを明確にした教育が必要であり、過度な教育をしていく考えはない。社員が委縮するような指導はあってはならず、恫喝行為は、会社として望んでいるものではない。また、個人への責任を追及することなくコミュニケーションのとれる職場が重要である。**
- ✓ 安全について様々な場で労使協議ができています。組織再編によって縦割りになることはない。安全について、社員が考え、現場目線を重視し、高めていく事が重要である。
確認! 今回の変更で「触車事故防止規程」を変えるものではない。試行であり効率的に作業ができるのか声を聞いていくものである。社員の「いのち、が守られ、安全・サービス向上をより高めるために再編を行うものである。

これまでの「原則線閉」の概念を蔑ろにする
本社からの通達について指摘を行う!

安全・サービスの向上については、**確認!**
支社と連携を強化し取り組むことを

利用者の「いのち」と「生活」を運ぶ鉄道事業に安全性・サービス品質の維持・向上は欠かせない!
世代交代が進む中においても、「安全第一」を言葉だけの独り歩きにさせてはならない!
組合員・社員の「いのち」を最優先にした組織再編とするべきだ!